

自己評価報告書

令和4年度 晴海幼稚園 自己評価報告書

園名：中央区立晴海幼稚園

所在地：中央区晴海1-4-1

園長名：上竹 陽子

園児数：153名

学級数：7学級

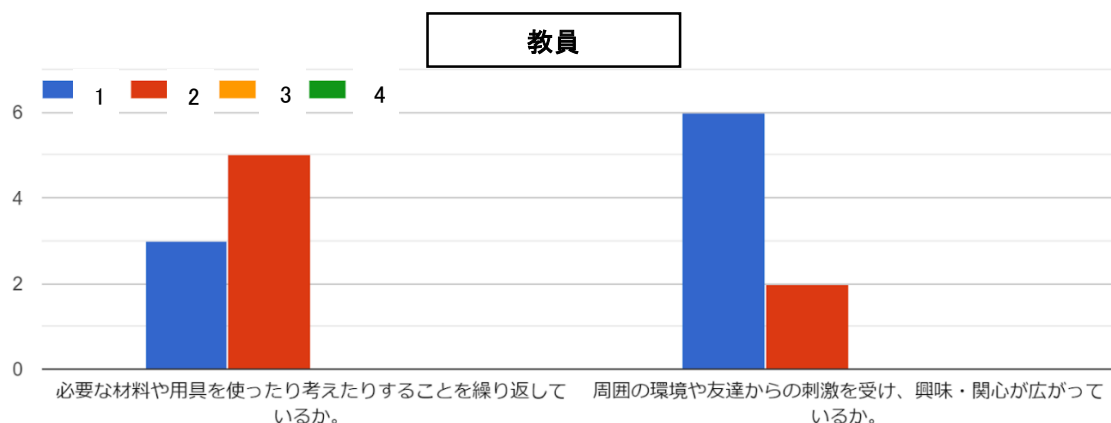
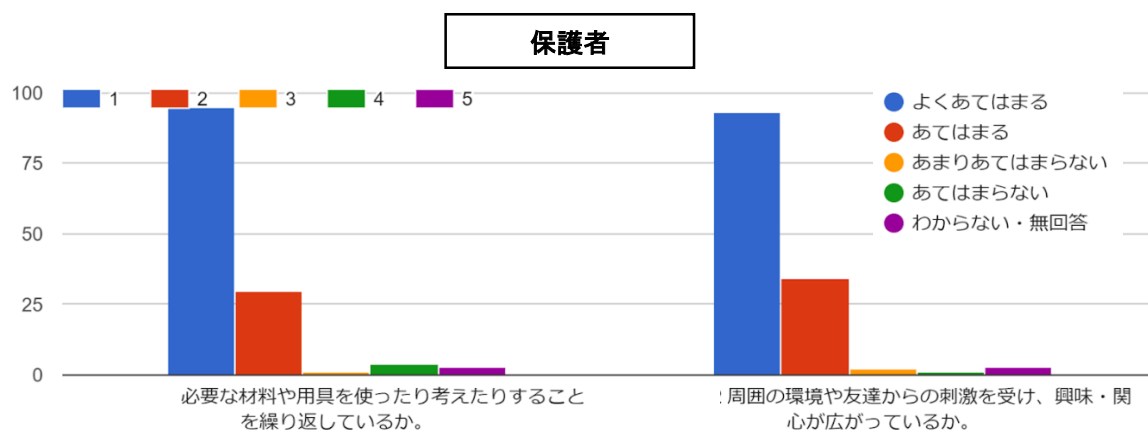
教職員数：18名

1 重点目標の達成状況及び取組状況

重点目標1 生活や遊びに夢中になって取り組む幼児の育成

評価指標①必要な材料や用具を使ったり考えたりすることを繰り返しているか。

評価指標②周囲の環境や友達からの刺激を受け、興味・関心が広がっているか。

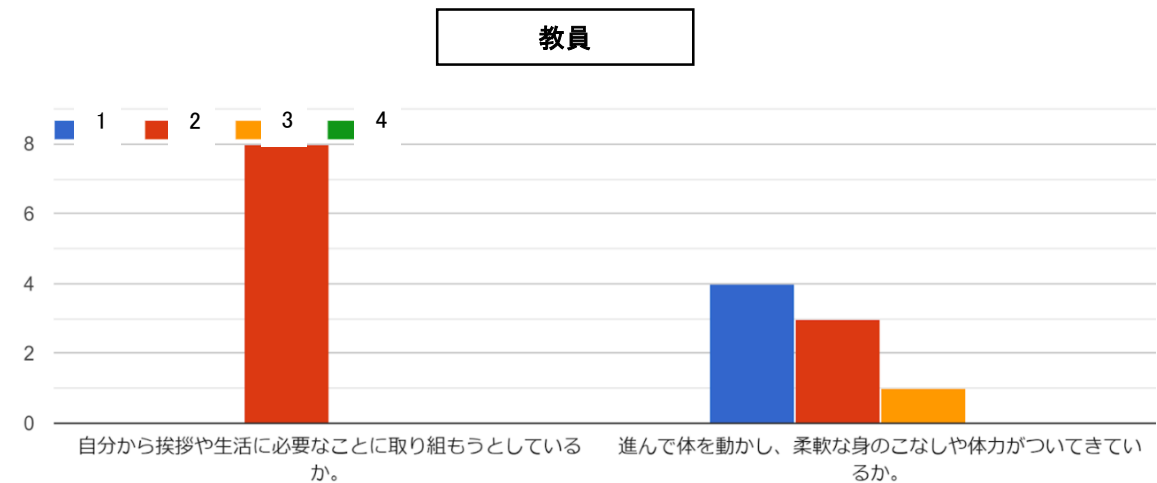
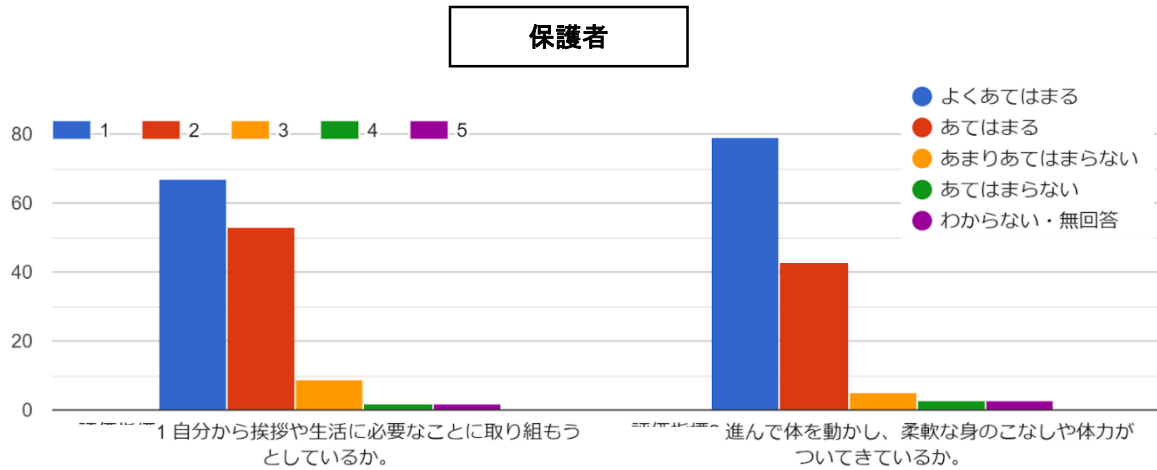


保護者・教員ともに高い評価となっている。保護者には、幼児が身近な環境から必要なものを取り込み、友達の姿を見たり関わったりすることを通して興味・関心を広げることが積み重ね、夢中になって遊んでいると実感していただけていると考える。教育内容や幼児の成長をルクミーや降園時の連絡などで保護者と共有できたことが、理解促進につながったと考える。一方で、①では、教員の評価は B の割合が高い。発達に応じた環境を整えて遊びの充実に取り組んできたが、施設活用においてさらなる工夫が図れるものと考えられた。次年度の指導に生かしていく。

重点目標2 様々な環境に自ら関わって体を動かし、心身ともに健康な幼児の育成

評価指標①自分たちから挨拶や生活に必要なことに取り組もうとしているか。

評価指標②進んで体を動かし、柔軟な身のこなしや体力がついてきているか。



保護者・教員ともに「1」「2」を合わせた割合が9割以上を占めている。

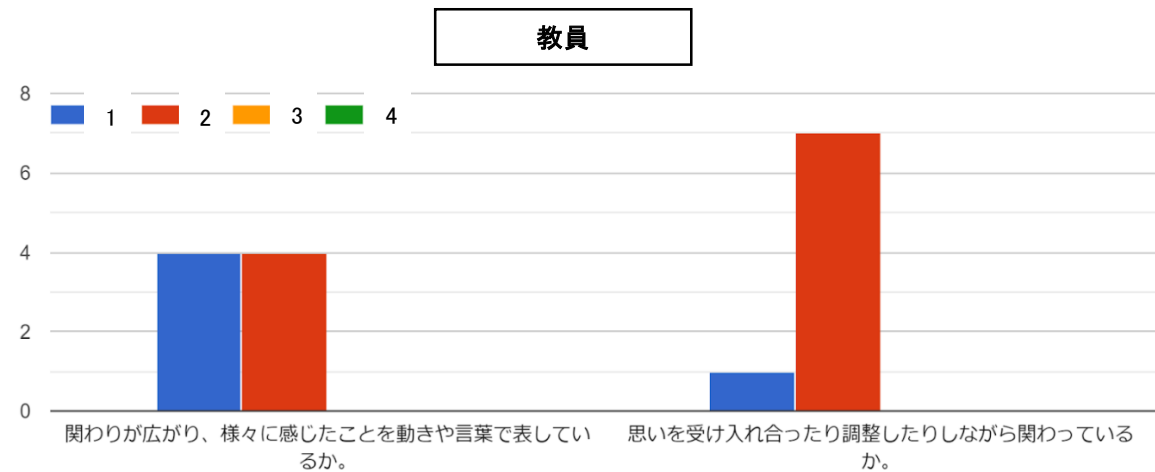
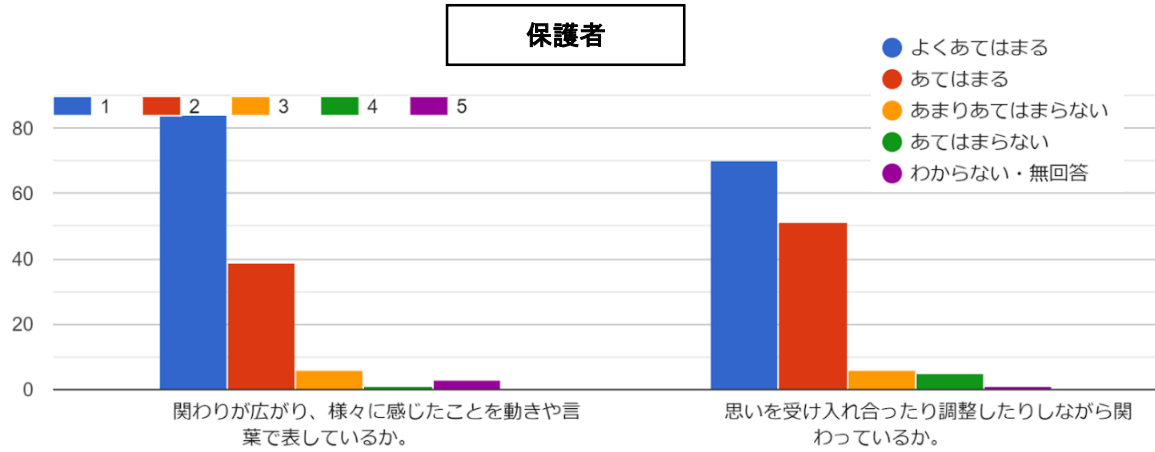
①については、登降園の際に親子で一緒に挨拶をしたり、教職員が挨拶をする機会を意識して率先して取り組んできたりしたことで、幼児に挨拶の習慣が身に付いたと考える。また、園生活に必要な身の回りのことに自分で取り組めるように丁寧に指導してきたことで、自分のことを自分でしようとする気持ちが育まれてきたと考える。教員の評価「2」は、自分から主体的に、という点がもう一步であった、という思いである。今後は生活習慣の自立に向け、必要感をもって幼児自ら取り組んでいこう、指導を工夫していく。

②については、運動遊びの充実に向けた園内環境の工夫をテーマに園内研究を進めるとともに、運動遊び推進園として「走る」遊びに着目して取り組んできた成果であると考え。園内全体を活用して、移動の際などにも様々な動きを取り入れてきたことが、幼児の柔軟な身のこなしや体力向上につながったと考える。

重点目標3 人と関わる心地よさを感じ、自他共に大切に思える幼児の育成

評価指標①関わりが広がり、様々な感じたことを動きや言葉で表しているか。

評価指標②思いを受け入れ合ったり調整したりしながら関わっているか。



保護者・教員ともに「1」「2」を合わせた割合が9割以上を占めている。日々の生活の中で、教員が幼児の思いを受け止め、友達との橋渡しをしてきたことで、人と関わる楽しさを感じたり、関わりが広がったりしてきていると考える。

引き続き教員一人一人が、評価指標のような幼児の姿を読み取るための幼児理解をさらに深め、降園時の話や懇談会、個人面談など、保護者の方と直接顔を合わせて話ができる機会を十分に生かして共有するとともに、諸状況を踏まえながら様々な関わりを広げ、幼児の心を豊かに育んでいく。

2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

保護者による全体評価

全ての項目で、「よくあてはまる」「あてはまる」を合わせた割合が9割以上を占めた。幼児の姿から、生活や遊びを楽しみながら様々なことに取り組み、主体的に学んでいると感じていただいていると読み取れる。また、ルクミーの活用が園生活の様子を知ることによって生かされていることや、コロナ禍でもできることを考え、園内外の様々な人との関わりを工夫してきたことをご理解いただいたものと考えます。

一方、以下の項目については、「よくあてはまる」「あてはまる」を合わせた割合は9割を越えているものの、「よくあてはまる」の評価が6割程度で、「あまりあてはまらない」「わからない」という回答も見られる。

「6) 幼稚園は、幼児が体を動かして遊ぶことや自然に触れる経験にすすんで取り組んでいる」については、運動遊びには力を入れてきたが、自然に触れる体験の充実は十分ではなかった。季節を感じられる自然との触れ合い、身近な自然を遊びに取り入れる活動の充実を図っていきたい。

「14) 併設の小学校や近隣の保育園との連携が積極的に行われている」については、年間を通して、複数の学年が計画的・継続的に保幼小連携を実践してきた。ルクミーのおたより機能を活用し、交流の内容や意味、幼児の育ちにつながった場面など、発信の内容を充実させ、新鮮な情報を適切なタイミングで提供できるように一層の工夫をしていきたい。

教員による全体評価

〈保幼小の連携〉〈情報提供〉〈本園の特色〉の3項目で改善を要する評価が見られた。

保幼小の連携は、本園の特色でもあり、幼小教員間の連携体制ができていることは強みである。そうであるからこそ、ねらい・めあての相互理解、交流内容のさらなる精査を深めていくことが今後の課題である。また、保育所・こども園との連携の点では、共同研修を継続しつつ、状況に応じて、子ども同士の交流の機会も増やしていきたい。

情報提供については、今年度アプリが導入され、出欠管理や保護者への情報発信が格段にスムーズになった。一方、地域の方への情報発信のツールであるホームページの充実には至らなかった。地域の幼児教育のセンター的役割を果たしていくため、地域の方や未就園児の保護者に向けて、ホームページでの情報発信の充実を図っていきたい。

また、地域を生かし、月島運動場の活用を計画したが、時期と活動内容、安全面に配慮した教員体制など、課題が見出され、有効活用が難しかった。併設小学校の校庭や近隣施設の計画的な活用に、連携を強化していきたい。

3 全体考察と今後の改善方策

上記より、今年度の評価結果について、以下のようにまとめられる。

①幼児は主体的に遊びや生活に取り組むことができている。

重点目標に掲げた幼児教育の重要な項目について、高い評価が得られたことは成果である。運動遊びや身近な自然との関わり、保幼小連携についても、幼児教育の充実には欠かせない内容であり、これからも継続して取り組んでいく。幼児の主体的な学びの充実のために、教育内容をさらに改善し、教員の指導力の向上に引き続き努めていく。

②幼稚園が、小学校・保育園・こども園・地域・未就園児とのつながりの中核となり、地域の幼児教育のセンター的役割を担っていけるようにする。

情報発信について、保護者に向けては、アプリの導入により、スムーズかつ新鮮な情報提供ができるようになったことは成果である。引き続き、発信する情報の内容の精査、発信の頻度の充実に努めていく。地域に向けては、ホームページの内容の充実が課題である。幼児の育ちを実感でき、幼児教育への関心を高められるような保育実践の掲示、未就園児の会への招待、親子でできる製作や触れ合い遊びの紹介など、具体的な取り組みを進めていく。ホームページを通して、地域にお住まいの方、未就園児や近隣の保育所・こども園など地域にも広く発信し、本園の教育への理解促進を図る。

保護者、地域への情報発信を充実させ、園内外の様々な人との関わりを工夫し、幼児の経験の幅を広く豊かにするとともに、晴海地域の幼児教育の質の向上につなげていきたい。